

中国
南西部山岳地帯におけるアグロフォレストリー事業

現地からのお便り

2015年10月
コンサベーション・インターナショナル

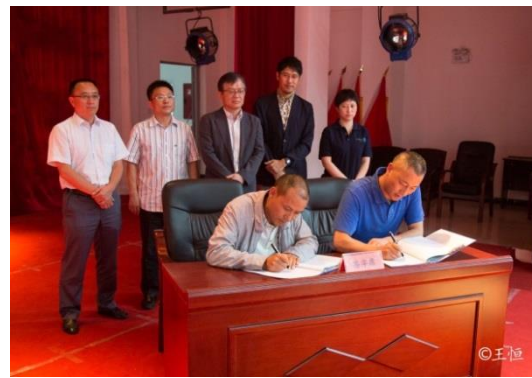
オープニングセレモニー開催

2015年7月16日、アグロフォレストリープロジェクトのオープニングセレモニーが、ガンブ村で開催されました。ダイキン本社、ダイキン中国、CI ジャパン、CI 中国、四川省森林局、理県環境保全森林局、地元コミュニティからの代表者が出席しました。

セレモニーでは、理県環境保全森林局とガンブ村議会との間で保全契約が締結されました。この契約に基づき、今後コミュニティエリア内に600ヘクタールの保全地域が設立され、コミュニティと政府が共同で管理するための規制事項が制定されます。



オープニングセレモニー



保全契約への署名

セレモニーの後、関係者でアグロフォレストリーの実施サイトを訪れ、そのそばにプロジェクトの看板を設置しました。CIスタッフが、プロジェクトのコンセプト、そして進捗状況を説明しました。



アグロフォレストリーのデモンストレーションエリア

初めての収穫

4月、プロジェクトで再開拓にまかれた豆の種は、発芽し、夏の太陽の下で大きく育ちました。8月最終週のインゲン豆の収穫を皮切りに、9月には大豆も収穫されました。豆類の収穫量は全部でおよそ1.5トンになりそうです。

豆類を植えると、窒素が固定化されて土が肥えます。一方で、収穫したインゲン豆や大豆を販売することにより、次期のプロジェクトの資金を得ることができます。豆類はクラウドファンディングサイト（Zhongchou.com）で販売されており、その収入で豆を収穫した残りの部分などを粉砕することができる機械を購入し、肥料として土に戻す計画です。無駄なく、全て活用することをめざしています。

表層の流出のモニタリング開始

土壌の表層の流出をモニタリングする設備が7月に設置され、8月と9月の2ヶ月間にデータを収集しました。長期にわたってモニタリングを続けることで、異なる植生の場所での水や土壌の流出の違いを比べ、アグロフォレストリーシステムが水と土壌を保全する上でどのように役に立つのか調べる計画です。

エコフレンドリー農業スタディツアー

9月14日から19日まで、ガンブ村の住民を対象にエコフレンドリー農業スタディツアーを実施しました。北京は中国で最も有機食材市場が成熟しており、多くの有機農場があります。北京郊外にある5つの有機農場を訪れて、経験を学び、また、生産技術、管理方法、そして販売方法についても意見交換をしました。北京オーガニックファーマーズフェアにも参加し、オーガニックマーケットについて学び、消費者のニーズについてもリサーチすることができました。

コミュニケーション

プロジェクトのニュースレターや紹介ビデオ用のために、オープニングセレモニーや作物の成長過程、エコフレンドリー農業のスタディツアーの様子を撮影しました。

切り絵の贈呈

セレモニーでは、ガンブ村の小学校のハン校長が地元コミュニティを代表して、ダイキンにチベットの伝統的な切り絵の作品を贈りました。木々とおぼみでガンブ村のアグロフォレストリー事業を表現した美しい切り絵は、ハン校長がデザイン、作成したものです。水のしずく、花、鳥が自然をあらわす一方で、村のシンボルでもあるやぐらが人間の営みを象徴し、人と自然の共存を表現しています。



贈呈されたきり絵

今後の予定

アグロフォレストリーとエコフレンドリー農業技術のワークショップを開催します。地元住民への果実の害虫対策トレーニングを行い、アグロフォレストリーのデモサイトにおけるモニタリングのサポートや、藁などの有機肥料をまいて土地を整え、翌春に植える苗木の注文を指導します。異なったタイプの土地における土壌や水の流出のモニタリングを継続し、プロジェクトの記録やビデオ撮影の機材の活用をすすめます。

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。